ロジスティクス研究会
ファックス通信
題字 浅井時郎東ト協名誉会長
インターネット・ホームページ
URL http//www.totokyo.or.jp/
e-mail：sounenbu@tta.ne.jp

ひびき

(社)東京都トラック協会
編集人　大淵隆次
東京都新宿区四谷３丁目１番８号
ＴＥＬ.０３－３３５９－４１３７
ＦＡＸ.０３－３３５９－６０２０

～安全と安心の共創～

２００７年3月３０日発行　3月号　Ｎｏ．１４６

※※※

◇安全マネージメント実施について

東ト協副会長・事故防止委員長　結城　幸彦［結城運輸倉庫㈱］

ロジ研の皆様　２月１６日開催の事故防止大会には格段のご協力を頂きありがとうございました。

また、それに先立つ１４日には｢安全と安心｣フォーラム開催と、ロジ研の事故防止に対する熱意が強く伝わり改めて敬意を表したいと思う所です。

そんなおり、｢ひびき｣に投稿せよとの連絡を頂き、感謝の思いをお伝えするいい機会と、この４月から我々小・中規模事業者に施行される｢運輸安全マネージメント｣にからめて原稿に手を付けようとした瞬間、全日空機の高知空港着陸の映像がとびこんできました。

運輸安全マネージメントについては研修会が支部単位でも数度開催されましたので、ロジ研の皆様をはじめ支部会員のほとんどの方には周知されたものと理解しているところですが、改めて、なぜ法律という形をもって施行されたかを思いおこされた所です

平成１７年に相次いだ空・鉄道・トラック・バスの事故は国のレベルで対策を講じなければならなくなったということです

前輪が出ないままの着陸は、一度のトライアルの後、二度目に見事に成功した映像を見ながら、公共交通機関の責務を痛烈に感じさせたものでした。

◇壮年部長随想リレー

新宿支部壮年部長　飯島光幸〔(有)トーワ・デリバリー〕

新宿区は昭和 22 年に、旧淀橋・牛込・四谷・そして武蔵野市の一部（戸塚・落合）を統合し新宿区と制定され 60 年になる。(他区も同様と思う）新宿の起こりは内藤新宿と称し、家康譜代大名である信州高遠城主、内藤修理亮清成を現在の新宿御苑地に住まわせ高遠を天領とした。四谷の御門より出ると御門外となりいわゆる“在”である。(八百八町もここまで）そして甲州街道最初の宿駅が内藤新宿であった。

江戸城で事あるときは半蔵門より主を天領に逃がし、四谷近辺には譜代の武家屋敷(服部半蔵も含む)がありその後詰めとしたらしい。

当時より宿場人足の多い宿駅であり(江戸市内御城下への輸送)、戦中・戦後を通し主な輸送物資は馬引き・リヤカーによる国鉄の引込み線によって恵比須より南口（現高島屋）に運ばれたビール輸送であり、牛込地域では大日本印刷にかかわる印刷製本物輸送が同じようにあった。現在大型保有の業者は馬引き輸送が原点であり、小型貨物保有業者はリヤカー輸送が主であったと聞く。現在の登録業者は最盛期のおよそ 59%であり次ぎの様な現状となる（１．最盛期＝146 社　２．19 年３月現在＝86 社）減少原因は様々だが、平成 15 年都条例規制による強制的な代替え・後継者不足・規制緩和による新規参入の値崩れ・運転者高齢による人手不足・印刷物の激減、となるのではなかろうか。

英和辞典によるとロジスティクス(Logistics)とは、兵站学｢兵員・軍需品の輸送･補給｣とあり、運送(transpotation)、運送会社(expresscompany)とはこれだけを比較するとかけ離れた気がする。

研究会である以上輸送全般にわたる趣旨と理解し会員の増強に励んでいる。

今後の『実輸送』を続けるために必要最小不可欠の「知識」と「経験」を、１社でも多くの会員に理解してもらうことを願う。

◇特別寄稿「広大な荒涼たる不毛地帯」Ⅲ（最終回）

千代田支部壮年部顧問　平岡　祐介［丸天運送㈱相談役］

夕食後駅へ向う。シベリア鉄道の夜行寝台車でウラジオストクへ 14 時間の行程だ。等級はソフトクラスといって個室コンパートメントの２人部屋で特等といえる。

仲間４人がたむろし星野会長差し入れのウィスキーはじめ新潟空港で買ってきた焼酎を飲みながら４時間ほど語り合った。深夜、横になったが酔った勢いで熟睡。朝６時には洗面所へ、身支度を整えウラジオストク駅構内の大きなレストランで朝食、一口のビールで喉をうるおす。

シャワーを浴びられないのは気持ち悪いと、元気のいい関東勢３名がタクシーでサウナへ向かう。我々が潜水艦 C－56 を見学している頃には合流。聞くところによると日本のサウナと違った良さと驚きがあったらしい、詳しくは判らないが・・・。又、展望台から見ると地形のいい軍港には軍艦が配備されている。街には大学が５つ位もあるという。こうして極東ロシアでの忙しい時間が過ぎた。

帰りは新潟まで１時間半のフライト。日本からとても近い所に居るのに、韓国・台湾・香港とも街の建物も違って、歩く人達も白人なので遠いヨーロッパへでもきたような気分だった。真冬は極寒の地となる両都市共、歴史があるとはいえ一昔前の田舎を感じさせる。でも、予定より 30 年早まり 2040 年には北極の氷が溶けて無くなるというから、その頃には果物もたわわに実る温暖で過ごしやすい町となり大発展を遂げているかもしれない。

最後になりますが参加メンバーとの交流もあり楽しい３日間でした、皆様ありがとうございました。

◇特集「日本航空安全啓発センター見学研修会の報告」

副研修委員長　飯沢　宗光［成光運輸㈱］

私達は、見学当日の 2007 年３月５日 13 時 00 分から 1985 年８月 12 日 18 時 12 分にタイムスリップしてしまいました。約 21 年半前のこの日に、私達が忘れる事の出来ない、いや忘れてはいけない悲惨な史上最悪の航空機事故が発生したのです。

この御巣鷹の尾根への墜落事故によって、何者にも変えがたい 520 名の尊い命が一瞬にしてこの世から消えてしまったのです。そして亡くなられた 520 名のご遺族の方々にはもちろんのこと、この悲報を聞いた私達にも信じられない衝撃的な事故でした。見学当日の安全啓発センターでは掲示されている遺書を大勢の方が、何度も何度も繰り返し読んでいたと思いました。その時、研修会に参加した方々は、200%の涙を流されていたようにも見受けました。安全啓発センター見学後、現在政府専用機などの操縦をされている、日本航空の広報部付機長の小林宏之氏のご講演をお聞きして、参加者の皆様はさまざまな思いをもたれたと思います。

私は今、社会で起きているさまざまな事故は集約してみますと、全てにおいて原点に戻り基本を忠実に実行することにより事故をなくすことができると思っております。

最後に、この事故により犠牲となり亡くなられた 520 名の方々のご冥福をお祈りいたします。

◇特集「幹事会報告」　総務委員長　松本　有司［金方堂運輸㈱］

３月１４日幹事会にて決議頂いた、一年間の事業活動報告並びに新年度事業計画について総務委員会よりご報告致します。研修委員会では運輸安全マネジメント講習・実演を伴う安全と安心をテーマとした総合フォーラムの開催、ＪＡＬ安全啓発センター見学と小林機長との対談を実施し、三組織を中心に各方面から多数のご参加を頂く事が出来ました。特にＪＡＬ安全啓発センターでは事故機や遺書を目の当たりにして、質実剛健なメンバーが目に涙を浮かべた光景は忘れられません。広報委員会では各活動報告・特集ほか、新しい試みとして星野会長を筆頭に壮年部ＯＢの先輩諸兄より温かい励ましのお言葉を頂戴致しました。企画委員会では温故創新セミナーにて特に長期修繕前の瑞巌寺を訪ね、住職に一般では叶わぬ見学をお願いする事が出来ました。何れも限られた予算の中、活動収支報告は幹事会にて承認されました。主旨をご理解頂き各事業に参加された皆様に厚く御礼申し上げますと共に、偏に、初顔合わせの正副諸兄が全力投球頂けた努力の賜物と感謝致しております。又委員会とは別に（社）日本交通科学协議会「交通科学シンポジウム」への参加など新生ロジ研の一年生としての活動は「安全と安心の共創」をテーマに様々な角度から調査分析を実施しすることが出来たと思います。

さて、二年生としての活動は「安全と安心の共創」を継続テーマとし、星野会長が提唱される会員企業の利益に繋がる安全の具体策を一層掘り下げて参ります。又、二年生らしいロジ研の存在意義を更に広くご理解頂けるよう部員拡大に努力して参る所存です。今後とも皆様のご支援の程をお願い申し上げます。

《百文字のひろば》

「確かこの前の百文字も年度末だったような・・」

足立支部　山田　正信［㈱森田商運］

当然、今年度の反省を書くと百文字じゃ足らないぞ、
それでは来年度の意気込みを・・精一杯がんばります！！
一体何を頑張るの？って、今度、皆さんにお会いした時に突っ込まれますなぁ・・

《行事予定》

◇「総会」　6 月 14 日（木）15：00～19：30　於：東ト総合会館